

Zero会 発表資料 2004-05-21 (Fri.)

「アメリカ素描」 司馬遼太郎

第4回目

第二部(後半) 291頁～394頁

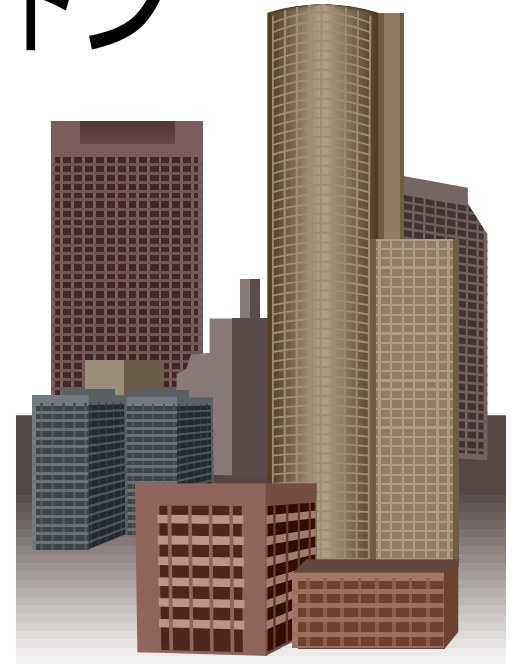
鶴田 陽太

第二部の前半では、ニューヨーク、フィラデルフィアを訪れた司馬氏が、後半はボストン、ポーツマスに足を伸ばし、アメリカ史に触れる。

また、締めくくりとして、マンハッタンでは、ウォール街を訪れるなど、アメリカ経済やビジネスについて論じている。

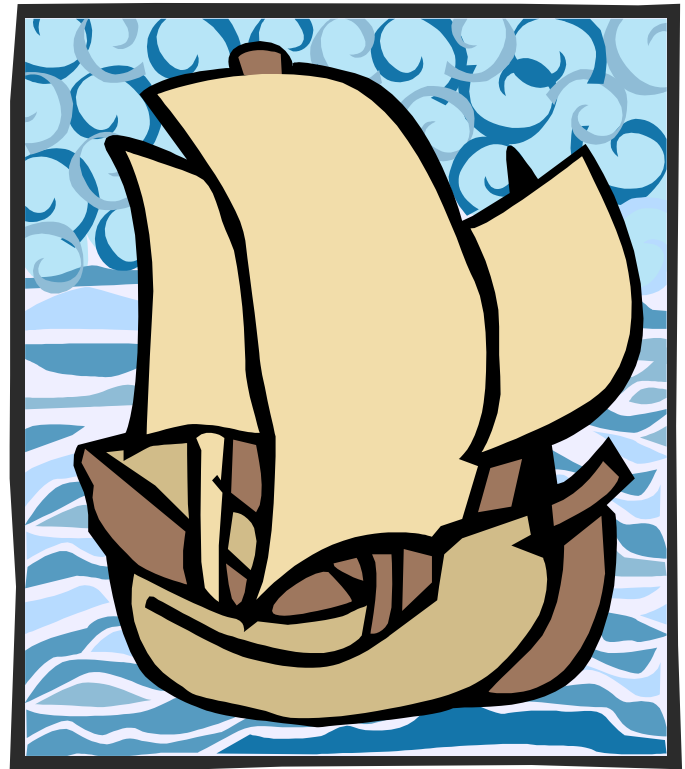
清教徒の街、ボストン

- ワスプの本拠地
- 1629年、英国のマサチューセッツ湾植民地として出発
- 排他的、不寛容な精神
- 近代国家の先駆けアメリカの原型



メイフラワー号

- プリマス (Plymouth)
- 1620年に102人の清教徒がイギリスのプリマスより出発
- プリマス湾側の丘で見た始祖たちのギリシャ・ローマ風な彫像
- 警句「If you're so smart, how come you ain't rich?」
- メイフラワー誓約書による最初の法 - 法が主人



文明と文化

- 黒人英語に見る、アイデンティティとしての文化
- 「ぺろんとしたアメリカ人」
- アメリカ文明の中で、欲される文化 = 精神の安らぎ



ポーツマス

- 1905年ポーツマス条約：小柄な小村と巨漢のウィッテ
- 「坂の上の雲」を書いている時に訪れた小村の故郷、飢肥。そして今回のポーツマス
- 日比谷焼き討ち事件における群集の理不尽、滑稽な熱気
- 日本慈善基金に見る小村の誠実さ